

ワット・ビットコネクト・フォーラム

DCを必要とする 自治体AIと地域の活性化

須藤 修

中央大学国際情報学部 教授

東京大学 名誉教授

Member of the OECD Expert Group on AI Futures

トランプ政権のAI Action Plan

(内容の一部) (2025年7月23日発表)

■ AIの採用を促進

- ✓ 医療、エネルギー、農業などの特定の分野での標準化を加速するために、広範な利害関係者を集める。

■ AIインフラ構築

- ✓ データセンターや半導体製造施設の許可手続きを簡素化し、迅速な建設を促進する。
- ✓ 電力網の強化と最適化を図り、AIの需要に応える。
- ✓ 半導体製造の国内回帰を推進し、供給チェーンの安定性を確保する。

■ 高セキュリティ・データセンターの構築

- ✓ 高セキュリティAIデータセンターの技術基準を策定する。
- ✓ 秘密計算環境の導入を進め、AIワークロードの安全性を確保する。

■ AIインフラのための熟練労働力の育成

- ✓ DOLとDOCが主導し、AI関連インフラの優先職業を特定する。
- ✓ 業界主導のトレーニング・プログラムを開発し、労働市場のニーズに応える。
- ✓ 中高生向けのキャリア・プログラムを拡充し、AIインフラ職業への関心を高める。



ガバメントAI・自治体AI RAG (Retrieval Augmented Generation)

多くの自治体は、RAGを重視している。
RAGによって各自治体固有のベクトル
知識DBを構築している。

自治体の積極的AI導入に向けて

す体し、効
化具とりの
刻、目的の
深め、お化
がたをれ効
在くとさ務
偏いこ催業
やてう開の
足し行が定
不にを」一
のの論会、
源も議究り、
資なく研よ
た能広るに
め可幅す入
含続て関導
を手ににの
手をつ方術
担り策ある
のの方のタ
域のの政ジ
地政応財テ
、財対行、言
て行び方はと
いの及地てる
お体理ない
に治整能お
下目の可に
少、題続会
減で課持究
口中な「研
人るめて同
果

✓ 総務省「自治体におけるAIの利用に関するワーキンググループ」（座長：須藤修）

総務省は自治体におけるAI全般の積極的導入支援する。

2025年7月31日に「自治体におけるAIの利用に関するワーキンググループ」報告書を公表した。

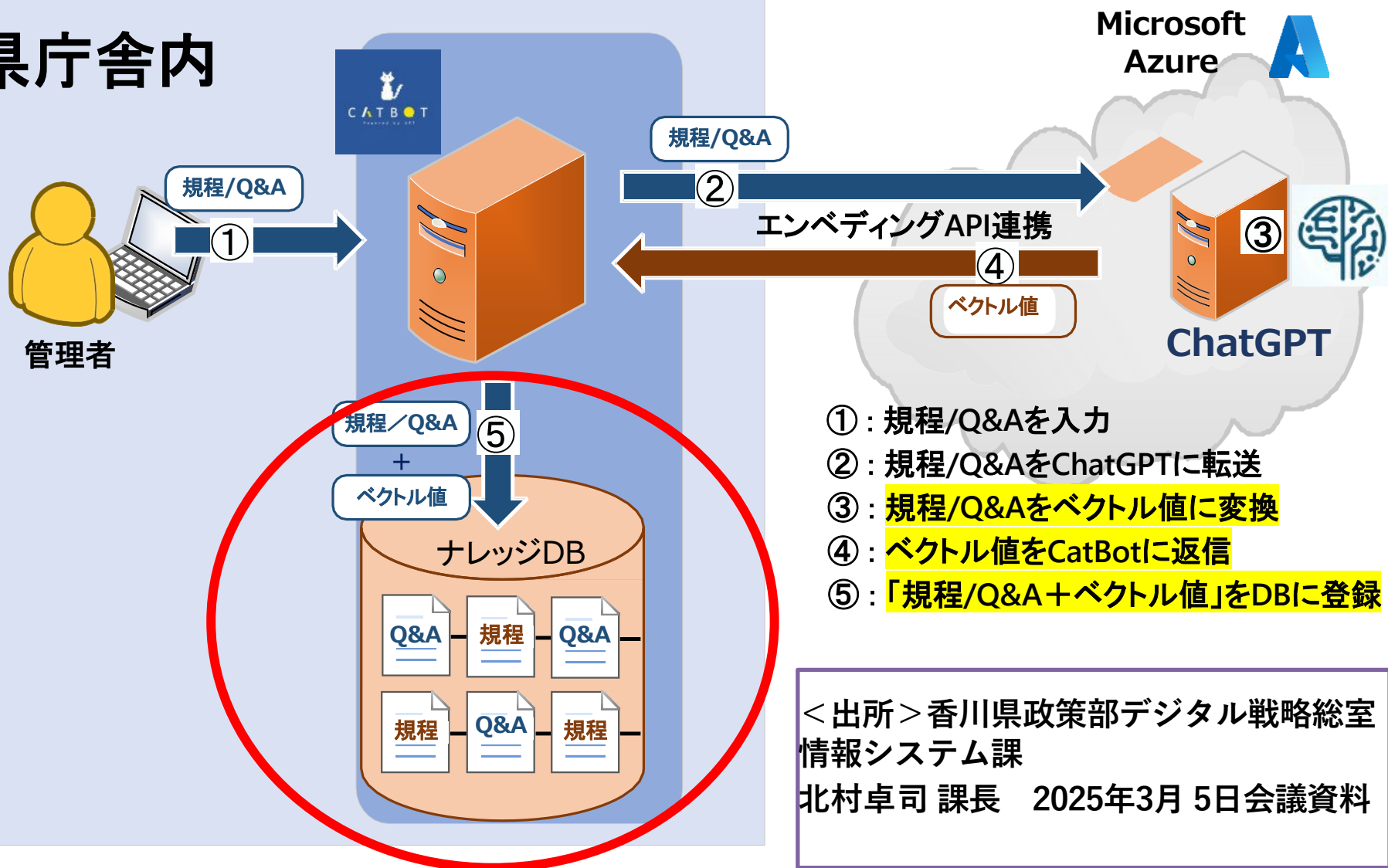
RAG導入の意義を確認。

■「統合イノベーション戦略 2025」（令和 7 年 6 月 6 日閣議決定）

[illegible]

香川県のRAG: 基本的な仕組み〔ナレッジ登録〕

県庁舎内



< 出所 > 香川県政策部デジタル戦略総室
情報システム課
北村卓司 課長 2025年3月 5日会議資料

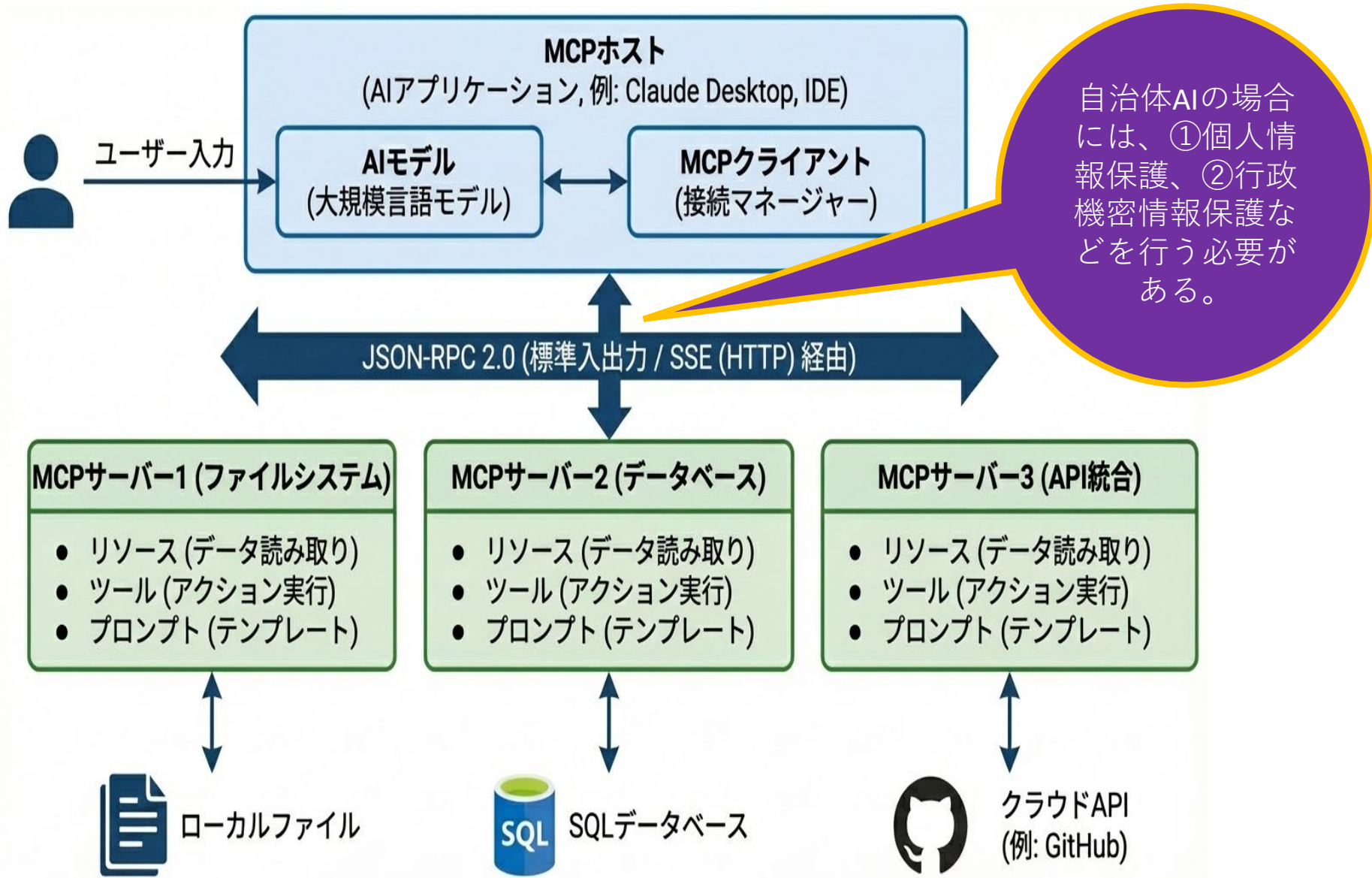
Agentic AIとAI Agentの違い

(OECD AI Futuresでの検討)

- ✓ AIエージェントとは: 環境を認識し、特定の目標を達成するために一定の自律性を持って行動できるシステムである。変化する入力や状況に応じて行動を適応させることができる。
- ✓ Agentic AIとは: 複数の調整されたAIエージェントから構成されるシステムで、タスクを分解し、長期間にわたって協働し、外部ツールを使用して複雑な目標を達成する。個別のAIエージェントよりも開放的で予測困難な環境で動作し、人間の監督は必要性が減少する。

MCP(Model Context Protocol)が不可欠と考えられる。

- ✓ 主な違い: Agentic AIは、AIエージェントと比べて、調整能力、タスク分解、作業の委任、ツール使用、複雑な環境での動作、人間の監督の少なさが特徴的である。
- ✓ AI Orchestratorの能力向上が必須！



AI社会発展に不可欠なインフラ

- 地域社会のAI化（その核としての地方公共団体AI）、Agentic AI、フィジカルAIの安定的稼働のためには、強力な電力基盤と通信基盤、そしてセキュアな分散DCネットワークが不可欠である。
- AI秘密計算環境、AI連合学習の環境整備が重要になる。アメリカ政府AIアクションプランでは重視されている。

政府方針であるソブリンAI構想を推進するには、データセンター自体のMCP・Agentic AIによる制御も重要な検討テーマになる！

